

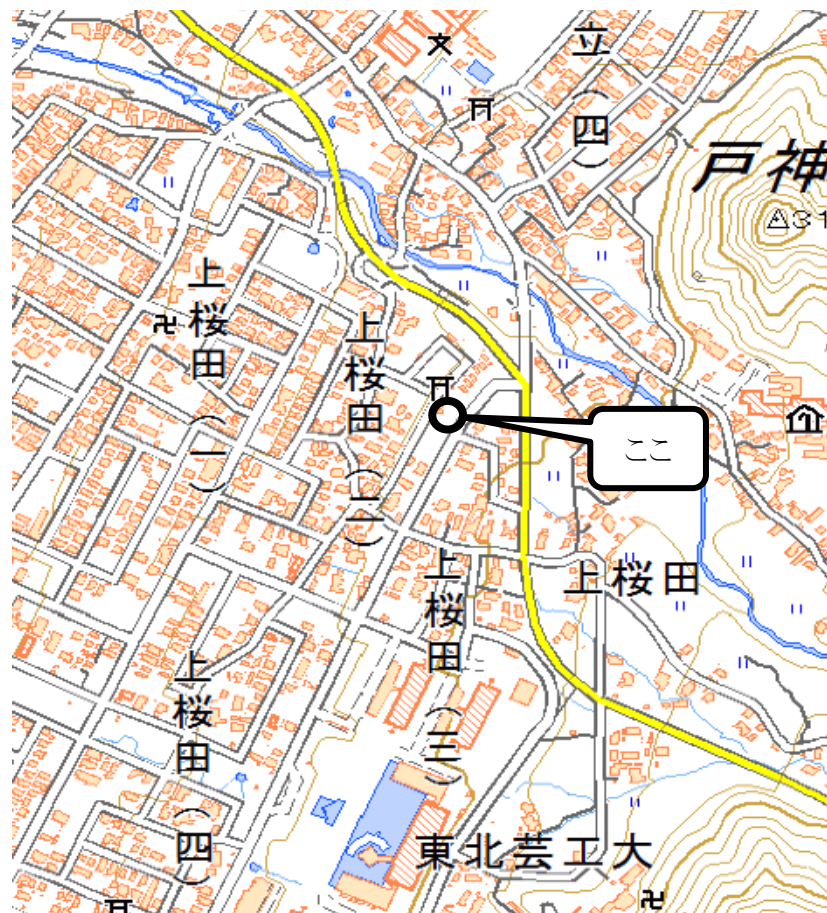
〔～吾が故郷は上桜田地区の
寺社シリーズ No 1
「上桜田 月山神社（1）」～〕

回
覧
②

1. 概要

（1）正式の名称は「宗教法人 月山神社」で、祭神は「月読尊」（うぐよみのみこと あるいは、つきよみのみこと）をお祀りしています。通常は上桜田月山神社と呼んでいます。

場所は図－1 のとおりの上桜田地区の芸工大前大通り沿いの北部に位置しています。



図－1

縁起の詳細は不明ですが、元々は、同社近隣の志鎌忠雄家（今も別当さんと呼ばれています。）の屋敷の守り神・氏神でありました。以前（昔）は月山堂と称し、当地区・周辺地域の人々からも信仰を集め、月山大権現様あるいは権現様と言って崇め祭って来ました。昔は出羽三山参詣に行く人

は必ずここに堂籠りをし、心身を精進潔斎（清浄に）してから月山へ参拝に出掛けていました。

（2）象徴である（神明）鳥居は、以前は木造であったが、灯籠（ローソク）の不始末で焼損した事から昭和 37（1962）年、今の鳥居に取替えています。材質は、一見コンクリートですが、実際は石です。その石の産出（採石・砕石）地が関心のある処です。手掛かりは、鳥居の脚下部に「石工舟越広／石採 石沢長兵エ」の刻字がある事です。この石工の後裔は現在も上桜田で営んでおり船越石材店です。

次に石採の事です。故人になられた長兵エさん



図－2

の親族で、若い頃に、本鳥居の採石に直接従事した中桜田の石材業石沢貞次さん（石工石沢として営業中）に辿り着きました。伺う中で、その場所は、次ページ図－5 のとおりの山形市新山から入った（国道 286 号線より南東方向 5 km 弱の所）雁戸山の麓、深山幽谷な所である事が判明しました。

（3）また、昭和 54（1979）年春には氏子総参加の奉加

金で、老朽化した社殿（拝殿・神殿）を建替（再建）し、現在に至っております。

（4）境内の樹木は、常緑針葉樹と落葉広葉樹がバランス良く配置され、松とあんず、桜（隣接の月山公園が応援補強）、楓などが鎮守の杜を成しております。図－2 のとおりの四季折々の風景が楽しめ、日本の原風景の雰囲気を持つ縮図といった処です。

2. 例大祭（毎年の祭典）

同社の例大祭は、以前は 4 月 8 日に斎行していたが、現在は 4 月 29 日（昭和の日）に実施しています。また、本町内会複数隣り組みの輪番制で祭

礼の幟旗上げを行っていたが、周囲環境の変化でそれが難しくなった事から、中止して今日に至っています。なお、旗（「村社月山神社 御祭禮」）は、現在は図－2 の右上（春）に示したように横に伸ばして掲げています。

祭りの主要行事は、五穀豊穰・家内安全・無病息災等を祈願して子供御輿（図－3）が本町内を練り歩き渡御しています。以前の神輿は酒樽（図－4／上

桜田の岡崎喜一さんより提供）でしたが、平成 17（2005）年に本町内会員の多くの方（子供のいる・いないに関らず）の寄附・浄財を賜り、新しいものを製作・更新（総額約 80 万円）しています。普段、神輿は、上桜田公民館の一階会議室の正面右側の戸棚（ガラス張）に飾っていますから同館に行った際をご覧ください。

もう一つの恒例行事としての、同社の年越し神事についてです。大晦日の日中には志鎌忠雄さんの奥

様がお神酒やお護符を用意してくれ、22 時 30 分頃

より年が明けた 2 時近くまで町内会役員が詰め、新年のお参りに来てくれる方々に対応しています。合わせて古いお札を燃やす御柴灯（おさいど）もやっています。例年 100 人程の人達がそれぞれの胸の内を誓っていきます。

2016（平成 28）年 1 月 15 日
上桜田町内会長



図－3



図－4

3. 同社境内は日本人の寛容精神の発露

（1）鳥居の意義は俗界と聖界（神界）の結界（領域を明確化する縄張りの意味）ですが、その神域の内部は神仏同座の環境となっており、日本人の広大無辺の寛容精神の象徴がここにあります。
・境内には石碑類が沢山あり、24 体程に整理しています。その内の石碑・石仏は 14 体、一番古いも

のは月待供養塔（元禄十年＝1697 年建立）です。特徴的なものとして、碑銘「大神宮」（寄進者の奉賛金額が刻字）、碑銘「荒神」（滝山地区では珍貴な石碑）などがあります。元々は、地区内の道端の辻や角にあったが、区画整理事業などによりここに集められたのです。

・石碑類は仏の香りぷんぷん、というより仏そのもの、明治の神仏判然・分離の荒波を乗越え今も神仏習合の其の儘の風土です。神と仏の分別を意識しない、違いを超越する大和民族の真骨頂というものが漂っています。

・日本人は古来より、天地万物・森羅万象を観ると、仏様の世界からは「山川草木悉皆成 仏」の「十方諸仏」が宿り、神様の世界からは「天神地祇（和魂と荒魂）」の「八百万の神々」が宿っている、と捉えるが、境内はまさに神々習合、仏々習合、神仏習合の展示館といった処、「天（神祇諸仏）・地（自然）・人」の三位一体の渾然融合を演出する一大舞台です。

（2）石碑類の石造物は、「たかが石ころ、されど石」です。石に字を彫っただけではありません。つまり、これらの石には、その時々の人達、地域の歴史、民族性・信仰心が詰まっています。石の建立はすなわち、一つの神社あるいは寺院を造立したものと同等の営みであります。明治以降の国土開発・昭和の高度成長激動期（土地区画整理、道路の新設・改良・拡幅事業等）でも廃棄されなかったのです。継承し維持して来た、大事に守って来た事の素晴らしさが現れています。

本当にありがたいものです。
寿ぐ心をつたない短歌で。

- ✓

よそびと さいじ は の
他人の細事撥ね退け凜と建つ
- 諸仏と和合月山神社
- ✓

桜 地 や し ろ しんばしら
上桜田の月山神社に建てん神柱
- みな
太く育てん皆の力で

4. 学校教育・生涯学習の素材

境内は隣接する（山形市）月山公園と相まって、今も昔も変わらない子供達の格好の遊び場となっています。石碑類は、子供達への教育、社会課野外学習・歴史学習の素材、大人達の交流素材になります。

- ①石の産地は、つまり、原石はどこにあったのか？ ②一つの石だったのか、どのように割ったのか？ ③大きさ・重さは？ ④どのようにして運んだのか、つまり、運搬経路（ルート）と運搬方法は？
- ⑤建立年是何時か？ ⑥運搬や設置に何人くらい関わったのか？ ⑦どんな仕掛けで設置したのか？ ⑧刻字（碑銘文、彫刻図柄）の内容は何を物語るのか？ ⑨石工や土工の責任者（現場指揮官）は誰だったのか？ ⑩所要資金、建設資金は誰が出したのか（今様のスポンサーは）？ ⑪昭和39(1964)年の新潟地震や平成 23(2011)年 3 月 11 日の東日本大震災でも倒壊しなかった理由は？

様々な疑問は尽きないものがあります。

今様の自(助)・共(助)・公(助)の根底の精神に共通するものがあります。

・・・・・・・・・・・・・・・・

【編集後記】

- （1）わざわざ車を止めてお参りし、「この神社はいつもきれいで、こんもりとしていて気持ちが良いね！」と感想をおっしゃられる紳士淑女が何人もおりました。
- （2）同社境内にある石碑類の分類一覧表については、後日、「上桜田 月山神社（2）」の中で記述する予定です。



図－5

- （3）ちょっと残念な事ですが、手水鉢をゴミ箱と見做す大人がおります。また、春になると、鳥居の前には投げ捨てた犬の糞が多数露出します。
- （4）悠久の昔から地域に溶け込んで来たものであり、みんなで大切に守って行きたいものです。

以上

（上桜田町内会 総務担当 大沼 香）